

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成25年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成25年度～平成27年度
5. 課題番号

2	5	5	9	0	1	4	0
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 介護職員の就労意欲の向上にむけた介護現場の条件を探る—施設特性からの影響—

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 1 2 1 8 6	ミブ ナオミ	人間関係学部	准教授
	壬生 尚美		

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 5 1 7 2 2 2	キム ミジン	人間関係学部	助教
	金 美辰		

9. 研究実績の概要

本研究は、特別養護老人ホームにおける今後のケアのあり方を、介護職員の就労意欲に焦点をあて施設特性からの影響について探るものである。

平成25年度は、蘇(2007)の有能感尺度を参考に作成した質問紙項目を再検討し、関東地方の特別養護老人ホームの介護職員の仕事意欲（有能感）について調査を実施し、介護職の仕事継続の魅力・やりがい感を探ることを目的とした。調査対象は、協力を得られた13施設の介護職員の内、1施設50～100%の割合で協力依頼し、ほぼ100%の回収率だった。調査票の回収は無記名で行い、回収の際には本人が密封した封筒に入れ、施設の調査担当者に提出し、施設単位で4週間後に回収した。調査時期は、2013年8月1日～2013年12月20日である。調査項目は、蘇らの有能感尺度15項目に5項目を追加した項目、満足感・やりがい感項目について5件法とした。仕事継続のやりがい感に関する自由記述、並びに勤務歴、教育背景等の属性項目とした。その結果、介護福祉士有資格者の仕事意欲（有能感）は専門職性に関する項目について、資格無者と比較し有意に高かったが、やりがい感・満足感は無意味に低い結果となった。介護福祉士有取得者の能力が発揮され、仕事継続のやりがい感につながることでケアの質を担保する上で重要だと考える。介護福祉士資格取得ルートは多様であり、勤務年数や介護職歴なども併せて介護職員の仕事継続のやりがい感の自由記述から詳細な分析を試み、今後の人材育成に役立てたい。

また、個室・ユニット型施設の前進であるグループホームにも同様な方法で質問紙調査を依頼した。5ヶ所の施設介護職員（83名）に協力を得た。

更に、今後の日本における特別養護老人ホームのあり方を検討する上で、隣国韓国において先進的な取り組みをしている施設介護職員に質問紙調査（40名）並びに人材育成の現状聞き取り調査を行った。